

りやすいんです。それに、食べさせることに関心があるわりには、運動をさせないものですか、カロリー過多で糖尿病になったり、肥満から心臓病になったり、かと思うとストレスで胃腸障害を起こすケースもあるん

です。人間の成人病と同じです。この典型的な例が、ある老夫婦が飼っていたチン（小型犬）。この老夫婦は足腰が弱くて、愛犬を散歩させることもままならない。しかし、エサは食べる

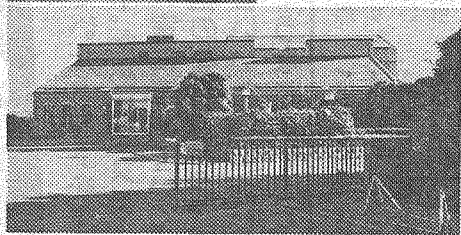
にまかせているから、お座敷犬は太る一方。「うちのチンは、横着で地面に下りると脚を振ってイヤがるんですよ」

と、夫婦は笑っていたそうだが、まもなくそのチンはわずか

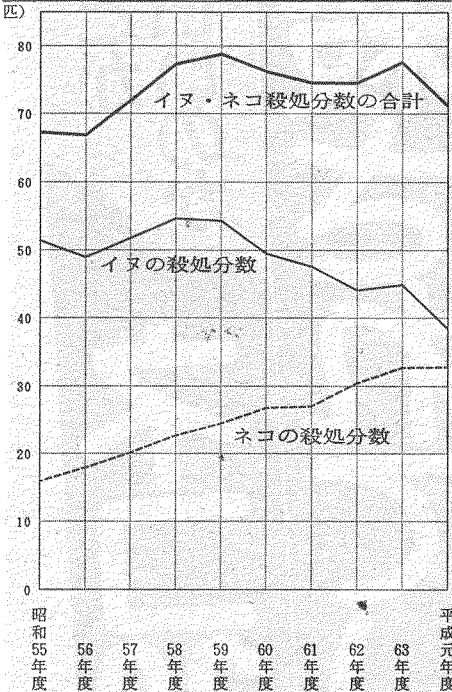


「私は動物の命を救う獣医なのに」と櫻井忠雄所長 所内の慰霊碑

東京動物愛護センター



ネコの処分数急増に注目



寝たきりペットが増えている

とは言うものの、栄養状態は以前に比べてよくなり、かつてはイヌやネコにとって致命的だった伝染病もワクチンが開発されて、ペットたちも高齢化社会を迎えつつある。

最近では、十五歳まで生きるイヌやネコも多くなったそうだが、十五歳と言え、人間の年齢では約九十歳。老年のペットには、一日中ペットフードを食べ

ているボケ老犬（猫）や、糞尿を垂れ流す寝たきりペットも増えているという。

反面、ここまで愛情をそいでいたペットを突然遺棄する飼

五歳で死んでしまった。人間なら四十歳前の突然死。直接の死因は心臓病だが、運動不足と高

い主が多いことはあまり知られていない。

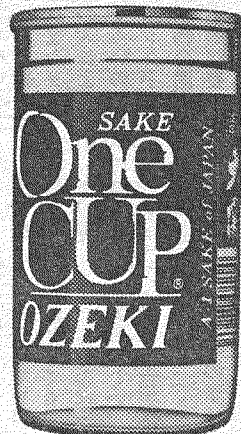
東京都動物管理事務所にペットの引き取りを要望した飼い主の理由を見ると――。

イヌは「転動、転居で飼えなくなった」、「鳴き声がうるさい」、「飼い主が制御できなくなった」の順。

ネコは「転動や転居で飼えなくなった」、「動物が病気になる」と、「飼い主が病気で飼えない」が続く。

同事務所の指導係が怒る。「やむを得ない理由もありますが、ほとんどは飼い主の勝手な

※飲酒は二十歳を過ぎてから。



清酒180ml瓶詰

ワンカップ®大関
大関酒造株式会社

ワンカップといえば大関。類似カップにご注意下さい。